

ユニバーサルデザイン

UD

2025 July

Vol.

4

さがみはら

ユニバーサルデザインでインクルーシブ＆ダイバーシティなまちづくり

旭森公園ツリーハウス予定地



県立相模原公園のともいき広場予定地



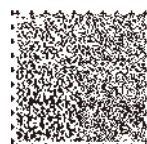
スポーツ・リエーションパークの
車イスで遊べる砂場

●ユニバーサルデザインの公園で
インクルーシブに遊ぼう

●左利き商品をあつかう菊屋さん
個人商店の生き残り戦略にも
ユニバーサルデザインは似合う

UD(ユニバーサルデザイン)とは
「みんなが暮らしやすくなるための工夫」のことです。

この通信は、市民協働提案制度事業「ユニバーサルデザイン普及・啓発事業」
として地域包括ケア推進課とNPO法人ここずっとが発行するものです。





誰もがともに遊べる公園づくりが進行中！

県立相模原公園内 ともいき広場
厚木土木事務所津久井治水センター工務課公園班 ☎042-784-1111 FAX042-784-7696

今、全国各地に増えてきている「インクルーシブ公園」。南区にある神奈川県立相模原公園では、「ともいき広場」の整備が進んでいます。障がいの有無や年齢、性別、国籍などを問わず、全ての人が楽しく遊べる公園をつくるためにどのような想いを持って取り組んでいるのか、県の職員さんにお話を聞きました。

神奈川県は「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念(図1)を具現化する取り組みとして県立相模原公園に「ともいき広場」を整備することを2023年7月に発表しました。

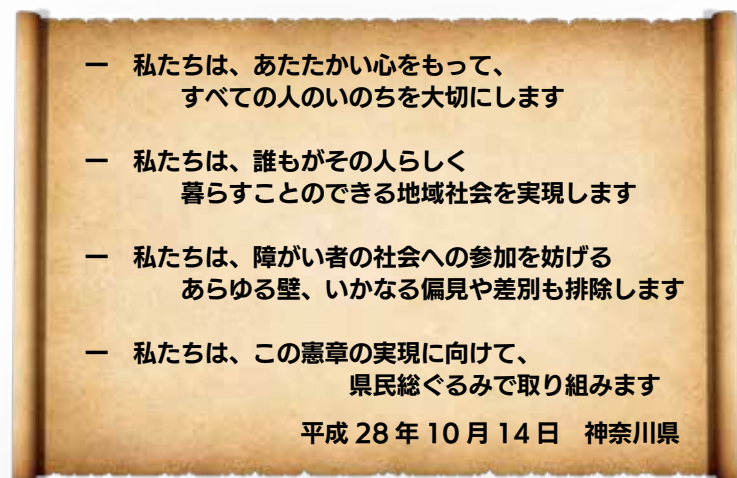


図1 「ともに生きる社会かながわ憲章」
2016年7月26日の津久井やまゆり園障がい者殺傷事件が二度と繰り返されないよう、ともに生きる社会の実現をめざしてつくられました。「ともいき広場」の名称はこの憲章に由来するものです。

これを受けて、特別支援学校の先生や保護者、障がい者団体などが参加する全6回のワーキンググループの開催や12日間にわたる遊具の体験会が実施され、当事者目線の検討が行われてきました。

そして出来上がったのが完成イメージ。(図2)
広場は、音や形を楽しむことができる【ぼかぼかエリア】、複数人で遊べる【にこにこエリア】、活発な動きを楽しむことができる【ぐんぐんエリア】、チャレンジ性の高い遊具がある【森のわくわくエリア】の4つに分けられ、子どもたちがそれぞれの年齢や特性に合わせて好きなエリアで遊べるようになっています。しかし、そのエリアは明確に区切られたものではなく、緩やかなエリア分けになるよう心がけたそうです。インクルージョン(一体)を目指そうとしたのに結果的にインテグレーション(統合)やセグレーション(隣接)になってしまうということもあります。「障がいのある子ども専用のエリア」が生まれないよう、遊具の設置場所などに工夫をこらし、さまざまな子どもたちが一緒に遊ぶことができる公園を目指しています。

ワーキンググループから出た意見も参考にされました。木陰を作るためになるべく樹木を伐らない設計、日除けや雨を避けるのためのシェルターの下には寝転んで使うこともできるロング縁台、地面

には遮熱のゴムチップが採用され、広場全体が過ごしやすい空間になるような工夫がされています。

担当の職員さんたちは、「ユニバーサルデザインの遊具を設置して終わりではなく、ともいき広場を『みんなで育てる公園』にしたい」と語ります。イベントの開催やSNSの利用等でともいき広場の存在を広く知らせ、ホームページに遊び方動画を載せることや、ルール設定を複雑にしないことなど、今までは障がいがある理由で公園に行きづらかった方々が足を運びやすくするための方法も検討中とのことです。

子どもたちにとって、遊びは生きることそのもの。公園で「みんなでともに遊ぶ」ことって、「ともに生きている」と言い換えることもできるのではないのでしょうか。来年春にたくさん子どもたちの笑顔が相模原公園にあふれるのが楽しみです。

Point! 社会における健常者と障がい者の関係性(状態)

ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が1994年に発表した「インクルーシブの原則」を元にここずっとが作成



▲ 旭森公園で話し合う自治会、利用者、公園課のみなさん
風のわたる昼下がりの旭森公園、木々の間に机をセッティングして話し合いがもたれました。旭町自治会の役員さんと日ごろから旭森公園を利用している近隣保育園、児童発達支援・放課後等デイサービス事業所に相模原市公園課の職員が加わって、老朽化のために撤去されたツリーハウス跡地の活用を考えようというものでした。旭森公園はその木々も多く、市内公園でも唯一のツリーハウスがありました。どんな公園にしたいかは、どんな地域にしたいか、どんな環境・暮らしのなかで子どもたちの成長を育めるかという問いです。誰もが一緒に遊べる公園づくりのために意見を寄せ合いました。

公園課として、特別にUDを求めるというようなテーマを意識しているわけではありませんが、遊具メーカーなどはどんどんUDやインクルーシブを意識して着実に変わっているそう。老朽化にともなう遊具の改修のたびに、必然的にそんな遊具に変わります。意識的にUDを求めていけば変化も加速すると期待できます。それに、地域市民、利用者の声が重なっていくと旭森公園のように地域公園の姿そのものも変わっていくそうです。



図2 ともいき広場完成イメージ図

2026年春のオープンを目指し現在工事が進められています。
※表紙写真参照

ともいき広場のHPはこちらから▼



相模原公園「ともいき広場」整備事業のHPには、総ルビ付きのワーキンググループのニュースも掲載。お子さんとワクワクしながら読むのもいいね。

市民参加でインクルーシブ公園の実現へ

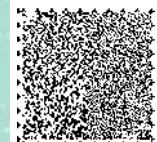
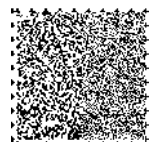
- 南区旭森公園 南区旭町14(大野南こどもセンター前)
- 相模原スポーツ・レクリエーションパーク 相模原市中央区小山2696(JR相模原駅北口から徒歩8分)

相模原市では、インクルーシブやUD公園を意識した一手として2020年に相模原スポーツ・レクリエーションパークをオープン、利用開始しています。公園内は転んでもけがをしにくいゴムマットが敷き詰められ、車イスのまま遊べる砂場、歩くのが苦手なお子さんでも登ることのできるすべり台型遊具など、他の公園ではなかなか体験できない遊具がそろっています。その遊具を楽しめる子どもたちのおおよその年齢表示が遊具本体にあるものの、年齢、苦手・得意を気にせず一緒に遊べそうです。

立地が在日米陸軍との共同使用区域内であるため、在日米陸軍との取り決めにより開園時間などに制限があること。そのことに関連してだと思われる、車いす利用者の動線への配慮に制限があり、公園付属のトイレもストレッチャーが無いなど使いにくさが残るのが少し残念。何より、子どもたちの遊ぶ姿に有刺鉄線が重なる風景が心寂しい。叶うなら、市民参加の運営協議態勢を願いたいところです。



▲ スポーツ・レクリエーションパーク遠景



左右両用
竹雀

「使いづらい」「不便」が体験できる文具店

菊屋浦上商事株式会社 相模原市中央区相模原 6-26-7
☎042-754-9211

利きの人は不便なことがよくある」ということを頭ではわかっていても、どんな時にどのように不便さを感じるのかを体験する機会はなかなかありません。店舗に行き、実際に左利き用のグッズを右手で使ってみると左利きの人が普段感じている不便さを擬体験することができます。試しに左利き用の定規を使って線を書こうとしてみると・・・通常は左端にある「0」が右端にあり、右から左に向かってペン先を押すようにして線を書くことになります。慣れていないということもあるかもしれませんが、まず「0」のポイントにペン先を置くことでさえ少し難しく感じました。

昔ながらの竹尺には数字が書いていないため、実は両利き用のユニバーサルデザイン商品であることを浦上さんが教えてくれました。「定規に数字を書くようになったために右利き用になってしまった。世の中を便利にしようとすると不便さが生じる」浦上さんの言

葉で、多数派の便利さのために少数派が不便を強いられているということに気付かされました。

社会にはさまざまな「少数派」がありますが、「左利き」もそのひとつ。私たちが生活する社会はそのほとんどが「右利き用」に作られています。全体の1割しかいない左利きの人が感じる不便さをどれだけ減らすことができるか。浦上さんの元にはさまざまな企業から左利き対応の仕組みや商品作りの相談が来るそうです。

菊屋さんにはハサミ、カッター、彫刻刀などの文房具のほか、フライ返し、レードル、急須、缶切りなどのキッチン用品、扇子や鎌やトランプなど多様なジャンルの左利き（もしくは両利き）グッズが揃えられています。つまりそれだけさまざまなものが「右利き用」に作られているということ。多数派でいると気付けないことが社会にはたくさんあるということを小さな文具店の一角で感じるすることができます。

左利き用グッズが陳列される棚の前で
代表取締役社長の浦上裕生さん。
手元に昔ながらの竹定規も
もともとUDだって知ってた？

左利き用
マウス

相模原市役所近くの西門商店街。「呼ぶ青い手・赤い手」のすぐ近くに店舗を構える菊屋浦上商事さんは左利き用グッズを多数取り揃えたお店。なぜそのような店舗展開をしているのか、店主の浦上さんにお話を伺いました。

左利き用グッズはネット販売の方が売れるにも関わらず、店舗を構え左利きコーナーを設けている理由は「使ってみてほしいから」。右利きの人は「左

連載第3回

UDで買い物がもっと楽しくなる

アリオ橋本の中を歩けば、あちらこちらでUDを見つけることができます。エレベーターの上の階数表示、誰にでも見やすいようにとても大きな文字です。入り口には、貸し出し用の車いすだけでなく、車いす専用カートも用意されています。これなら膝の上に買い物かごを乗せずに買い物できます。

2階の洋服売り場には「ゆったり試着室」があります。車いす利用の方も付き添いの方と使える広さ。小さなお子さんのためのいすが備えられているので、ママもゆっくり試着が楽しめて、子ども連れの家族にも好評です。

館内のあちこちに一休みのためのベンチを配置。いす座面の高さも、小さなお子さ

んを含め家族で座れるよう工夫されています。特にトイレの前は、ゆったりとしたレストスペースになっていて、家族の誰かがトイレに行っている間、立って待つ姿をここでは見かけることはありません。

フードコートではテーブルはもちろん、手洗い台も、高いものと低いものがあります。車いすのままテーブルを使用できる気遣いがうれしい。

Ario という名前は、Ariel（アリエル・空気の精）に接続尾「o」をつけたものだそうです。アリオのUD そのひとつひとつが、アリオで誰もが自然と感じる心地よさにつながっています。心地よさが買い物のワクワクを支えているのです。

UDアリオにあるよ



階数表示の文字の大きさが！
ハッキリ、クッキリはストレス低減の元



ゆったり試着室 車いすのまま介助者と一緒に、ベビーと一緒に試着できます

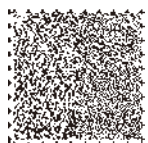
■『UD さがみはら』は令和7年度市民協働事業の「UD 普及・啓発事業」として発行するものです。

UD さがみはら vol.4 ■ 2025年7月25日発行
相模原市地域包括ケア推進課・NPO 法人ここずっと



〒252-0303 相模原市南区相模大野 9-6-18
☎042-851-5646 FAX042-742-0447
<http://www.cocozutto.jp/>

UDさがみはらバックナンバーの音声版が右記QRコードのYoutube で聞ることができます。



@ud_sagamihara



ud_sagamihara

みなさまからのご意見や情報提供を募ります。投稿先⇒e-mail:udsagamihara@cocozutto.jp